―これからお話を読みます。手を膝の上において静かに聞きましょう。

もうすぐハロウィンです。オオカミくんとコウモリくんの二人は、一生懸命準備をしています。オオカミくんは鋭い爪と強い力で飾り付けのかぼちゃを作ります。コウモリくんは小さな爪を上手に使って、自分はドラキュラの衣装、オオカミくんには狼男の衣装を縫っています。「おばけに見つからないように、うんと怖いおばけの格好をしなくっちゃ」とコウモリくんが言いました。「ハロウィンは良いおばけも悪いおばけもたくさん町にやってくるものね。悪いおばけにどこかにつれていかれないように、おばけたちの中にかくれないといけないんだよね」とオオカミくんが言います。「ええ！おばけがたくさん町にやってくるの？こわいなあ」と知らない声が突然後ろから聞こえてきました。オオカミくんとコウモリくんが振り返ると、扉のかげに困った顔をしたウサギさんが立っていました。「お母さんとはぐれちゃって帰れないのに、おばけがたくさんいる町を一人で歩きたくないなぁ」ウサギさんは泣きそうな声でそう呟きます。「じゃあ、みんなでウサギさんの家を探そうよ！お母さんももう家に帰っているかもしれないよ」コウモリくんはウサギさんに言いました。ウサギさんはそれを聞いてうれしそうな顔をして頷きました。さて、それから三人は町の人たちにウサギさんの家の場所を聞いて回ります。でも、どうしても見つかりません。ウサギさんは困った顔で言いました。「この町は私が住んでいた町とはすこし違う気もするの。例えば、私が覚えている町は、道の角にはビルじゃなくて 2 階建てのお花屋さんが建っていたわ」ウサギさんは角に建っている 10 階建ての大きなビルを指さします。すると、その話を聞いたヒツジのおばあさんははっとした顔をして、「２階建てのお花屋さんなら、隣の町のことじゃないかい？」と言いました。ウシのおじさんも「たしかに、隣の町には２階建てのお花屋さんが建っているね。」と言いました。それを聞いたウサギさんは、笑顔になって「私の家が見つかるかもしれないわ。」と言いました。さっそく三人で隣町に行くと、赤い屋根の家の前で心配そうなウサギのお母さんが立っていました。「お母さん！」ウサギさんは大きな声で呼びました。「ああよかった。無事だったのね」とウサギのお母さんが言い、ウサギさんを抱きしめました。オオカミくんとコウモリくんも、ウサギさんが無事にお母さんと会えたので、安心しました。オオカミくんとコウモリくんが家へ帰る前に、ウサギのお母さんは「オオカミくん、コウモリくん、一緒にお家を探してくれてありがとう。少し早いけれどこれをあげるから、二人で食べてね」とリボンのついたバスケットからハロウィンの飾りがついたかぼちゃクッキーを 6 まい出して、二人にくれました。

―お話はこれでおしまいです。プリントをおもてにしましょう。

＜設問＞

① ウサギさんが町を一人で歩きたくなかったのは、何が怖かったからですか。その絵に〇をつけます。

② お花屋さんは何階建てでしたか。その数だけ〇をかきます。

③ お母さんがクッキーを出した入れ物を選んで〇をつけます。

④ かぼちゃクッキーを二人で分けたら一人何枚になりますか。その数だけ〇をかきます。